

天文王国
おかやまの天文学

プロとアマチュアが紡いできた日本の天文学



参加費
無料

写真上：岡山天体物理観測所
写真下：倉敷天文台とベネット彗星

2026年 9月6日 日

13:30～16:30 (開場13:00)

岡山理科大学 理大ホール (C1号館 8階)

定員：487名(申込不要) ※収容定員

住所：〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1

対象：中学生以上・一般向け

形式：対面



アクセスマップ

(講演 1)

岡山が切り拓いた
日本の天文学

— 岡山天体物理観測所の果たした功績 —

講師：吉田道利 (国立天文台・副台長 / 教授)



岡山県は瀬戸内海に面し、晴れの日が多く、また、気流が安定して星の見え味が非常に良い。その地に、当時アジア最大の望遠鏡が建設され稼働を始めたのは、1960年であった。東京天文台(後に国立天文台)岡山天体物理観測所 188cm 望遠鏡は、日本で初めての本格的な研究用望遠鏡であり、日本の近代天文学の黎明期を支えたばかりでなく、数々の機能更新を行って、建設後66年を経過した現在も活躍を続けている。本講演では、この望遠鏡の築いてきた天文学の成果と、地元の方々との交流を振り返る。

(講演 2)

倉敷天文台
創立100周年と本田實

講師：三島和久 (ライフパーク倉敷科学センター・学芸員)



2026年11月21日、倉敷天文台は創立100周年を迎えます。民衆への天文普及を理念に掲げ、日本で最初に誕生した公開天文台の第一号です。その創立前後の歴史と、戦中戦後、同天文台で活躍し「天体発見王」と称された本田實の足跡をたどります。

(講演 3)

岡山から月へ：
月面で探る宇宙のはじまり

講師：山内大介 (岡山理科大学・講師)



月面から宇宙のはじまりを「読む」。月面天文台 TSUKUYOMI が目指すのは、地球上では決して見ることはできない138億年前の記憶です。なぜ今、月が天文学のフロンティアなのか、私たちはどのような「宇宙のはじまり」を目撃するのか、最新の科学が解き明かす宇宙の姿を分かりやすく解説します。

主催：公益社団法人 日本天文学会

共催：岡山理科大学

後援：岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、
倉敷市教育委員会、浅口市教育委員会、
天文王国おかやま、
公開天文台100周年 JAJOS公認企画



※最新のプログラムにつきましては学会ホームページの
公開講演会ページをご覧ください。
<https://www.asj.or.jp/jp/epo/lecture/>